



こんどう きよし 近藤 聖 議員

問 役場周辺の植栽計画は

答 新庁舎の北側と南側に集約

議員 田の沢川(流雪溝)は現状のままか。
政策秘書課長 構想としては、通行部分を現在より広く取りながら、役場

町長 中心市街地のにぎわいを創出する拠点として、各種イベントが開催できる十分なスペースと駐車台数を確保するとともに、一体的な敷地の有効活用を念頭に置き、段差や車止め、街灯など、敷地を分断する構造物を配置しない設計としている。敷地東側は、1期工事(8月竣工)の期間内に終える予定である。敷地西側は、消防署分署棟・車庫棟・大屋根広場工事と合わせて整備する計画である。

外構工事について

議員 立派な新庁舎にふさわしい環境と景観が望まれるが、外構工事の具体的な予定と内容は。
町長 中心市街地のにぎわいを創出する拠点として、各種イベントが開催できる十分なスペースと駐車台数を確保するとともに、一体的な敷地の有効活用を念頭に置き、段差や車止め、街灯など、敷地を分断する構造物を配置しない設計としている。敷地東側は、1期工事(8月竣工)の期間内に終える予定である。敷地西側は、消防署分署棟・車庫棟・大屋根広場工事と合わせて整備する計画である。

議員 葛巻病院横や葛巻小体育館横の駐車場はどう活用するか。
政策秘書課長 来院者や中央公園などを利用する一般車両が引き続き利用出来るように考えている。
議員 バス停は病院前に移動するのか。また、「JRバス「しらかば号」が病院前に停車する見込みは。
政策秘書課長 従来のバス停に戻すようバス会社とは協議している。「しらかば号」停車は、利用状況等を見るなどの検討が必要なので、バス会社との調整を続けていきたい。

新庁舎周辺環境の整備について



手入れされた現公民館裏の植木と庭

議員 新庁舎敷地周辺の設置物の配置や、現存植木等を含む植栽計画は。
町長 駐車スペースを多用途に利用し、冬季除排雪の効率化を配慮して、北側と南側の道路沿いに集約する。「オオムラサキツツジ」を新しく植樹する計画である。既存の樹木などの植栽計画は、今後、庁舎周辺の町道改良工事の計画との調整も図りながら進めたい。
議員 葛巻町の山地にある樹木等を植栽し、名札

を付けることで林業振興の一助になるのではないかと。町民や子供の教育・啓発に大変有効と思うが。
政策秘書課長 スペース上、植栽場所が限られるので、高木の植栽は考えていない。現存の庭木などはできるだけ活用したい。
議員 新庁舎周辺に、風車を設置したら、町のPRに役立つのではないかと。
政策秘書課長 役場周辺では、制約などもあり、現在は考えていない。他の設置物も同様である。



すずき みつる 鈴木 満 議員

問 自主防災組織への町の支援は

答 地域の実情に合わせて支援

議員 町にある28地区の自主防災隊の活動状況はどうか。「防災計画」を立案し実施しているところはあるか。又、資機材の保有状況はどうか。
町長 自主防災隊の役割は、災害発生時の、避難所の運営、要支援者に対する避難支援のほか、平時での避難訓練や研修会等を開催し、住民の防災意識と防災力の向上に努めている。また、平成29年度から防災対策専門員を配置し、活動マニュアルの作成や研修会等への講師派遣など、主体的な活動を支援してきた。引き続き地域の防災力の向上に必要な支援を講じて参りたい。

自主防災組織の状況は

「防災計画の策定等」については、現時点で「地域防災計画」は作成されていないが、それぞれの

実情に応じて、非常時に備えて組織体制を整備していただいている。今後希望する自主防災隊に対しては策定に向けた支援を行いたい。
「資機材保有状況」については、各地区センターに太陽光発電設備や小型発電機の整備を、平成24年度は簡易救助器具などの活動用資機材を整備し、他にも寝袋やアルミロールマットなども配備している。併せて備蓄食料品や飲料水などは分散管理しており、地域の実情に応じた資機材等を整備している。

婦人消防協力隊の在り方

議員 近年、高齢化が急激に進行している中、町婦人消防協力隊の時代に対処した組織づくりに町は指導力を発揮すべき。町としての考えを伺う。
町長 町婦人消防協力隊

は現在本部及び18の分隊で組織され、総勢222名の隊員により構成されている。隊発足から40年以上経過し、隊を取り巻く環境が大きく変化してきていることから、状況を踏まえた組織の在り方を検討する時期を迎えていると認識している。

学校における防災教育

議員 町の国土強靱化計画では「いわての復興教育」復興プログラムに基づいて防災教育を行っていることとされているが、本町ではどのように進められているのかを伺う。

町長 小中学校においては、学校安全計画や学校管理マニュアルを作成し、避難訓練、消火訓練、煙体験など、地域の実情に応じた体験的、実践的な防災教育に取り組んでいる。また、幼少期における防火、防災思想の普及・啓発を目的に少年消防クラブが、保育園には幼年消防クラブが自主防災組織として結成されており、防災教育の実践の場として取組まれてきた。今後、関係機関等の協力を得ながら、体験的、実践的な防災教育の推進に取り組む。



避難所設営訓練を実施する冬部自主防災隊(令和3年)